

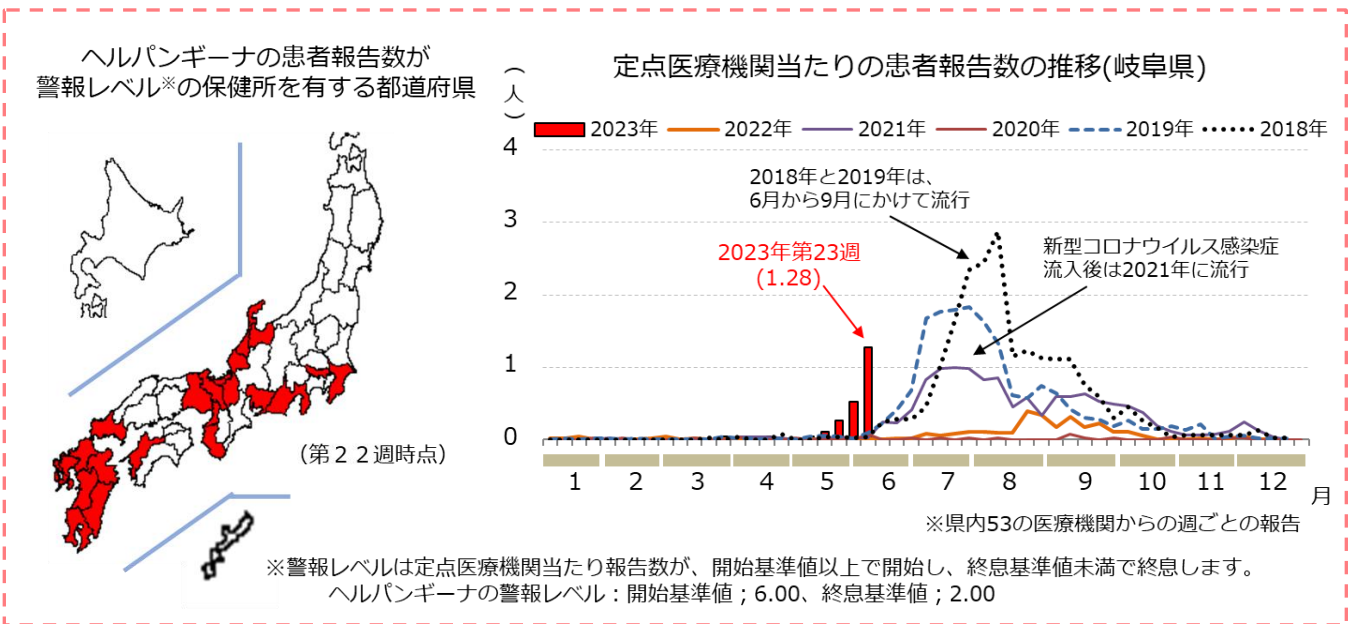
# ぎふ感染症かわら版

令和5年6月15日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



## 「ヘルパンギーナ」に流行の兆しがあります！

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に流行する夏かぜの一種です。現在、全国各地で流行しており、岐阜県においても6月からその患者報告数が増加しています。小さいお子さんのいる家庭や保育所などでは注意が必要です。



ヘルパンギーナは、5才以下のお子さんが多くかかります。り患すると高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱(すいほう) (水ぶくれ) ができます。多くの場合、数日で自然に治りますが、のどの痛みが強いため、食事や飲み物を受けつけず脱水症を起こすことがあります。また、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。



ヘルパンギーナは飛沫や手指を介して感染するため、身の回りの消毒が主な予防法となります。そのため石けんを使った手洗いと、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう。特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は石けんで手を洗いましょう。唾液のついたおもちゃなどは洗淨・消毒しましょう。

※この病原体（ウイルス）は、症状が治まった後も2～4週間、便の中に出てくることがあり、長い間周りの人への感染源となる可能性があります。注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

